



余裕をもった計画をたてよう

- 登山は朝から始め、明るいうちに下山するのが鉄則です。
- 天候が悪い、体調がすぐれないなど悪条件のときは無理に登らず、またの機会を待ちましょう。

出発前の準備に必要な装備

- 登山は登山者の自己責任が原則です。事前にルートや天気、危険箇所、避難施設についてよく調べ、装備を整えてから登山しましょう。

- | | | |
|------------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------|
| <input type="checkbox"/> ヘルメット | <input type="checkbox"/> 飲み物 | <input type="checkbox"/> 雨具・防寒具 |
| <input type="checkbox"/> ヘッドランプ | <input type="checkbox"/> 非常食 | <input type="checkbox"/> 帽子 |
| <input type="checkbox"/> ゴーグル | <input type="checkbox"/> 救急用品 | <input type="checkbox"/> 手袋 |
| <input type="checkbox"/> 地図 | <input type="checkbox"/> 緊急連絡票 | <input type="checkbox"/> ホイッスル |
| <input type="checkbox"/> コンパス | <input type="checkbox"/> 無線もしくは携帯電話 | <input type="checkbox"/> 携帯トイレ |
| <input type="checkbox"/> 自分の名前や連絡先 | <input type="checkbox"/> 携帯電話予備バッテリー | <input type="checkbox"/> 熊鈴 |
- がむかのり **持ち物チェックシート**

登山届を必ず提出しよう

- 登山届ポストや県、警察署などで提出しましょう。
- 登山届提出はアプリ(コンパス、YAMAPE)が便利です。裏面に各アプリのQRコードを掲載しています。

山の中の危険に注意

- 山の中には道など危険なところが多くあります。登山道から外れなよう注意しましょう。また、登山道であっても落石、倒木、スズメバチやマムシなどの危険が身の回りに潜んでいます。
- 熊の出が増えています。熊鈴を携帯する等、対策しましょう。

スズメバチに出会ったら

ハチを刺激しないように逃げ回らず、カチカチと音を立てて周囲を飛んでくる場合は近くに巣がある可能性があります。すみやかに引き返して立ち去りましょう。

気温や天候の変化

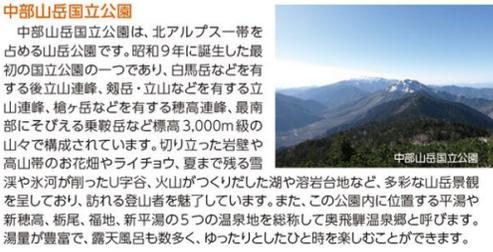
- 山岳地域では、急に気温が下がる場合や天気予報で予測されない天候の変化があります。雲の様子や気温の変化、雷、風、視界などに注意しましょう。

急な増水

- 降雨時に河川や沢沿いを歩くと、急に水位が上昇するおそれがありますので、注意しましょう。

噴火や火山ガスに注意

- 何の前ぶれもなく噴火する可能性もありますので、常に火口付近の様子に気を付けましょう。
- 火山ガスは窪地や谷などに溜まっていることがありますので、絶対に立ち入らないでください。



中部山岳国立公園

中部山岳国立公園は、北アルプス一帯を占める山岳公園です。昭和9年に誕生した最初の国立公園の一つであり、白馬岳などを有する後立山連峰、剌岳・立山などを有する立山連峰、槍ヶ岳などを有する穂高連峰、最南部にそびえる奥穂高岳など標高3,000m級の山々で構成されています。切り立った岩壁や高山帯のお花畑やライチョウ、夏まで残る雪渓や氷河が削ったU字谷、火山がつくりだした湖や岩谷地など、多彩な山岳景観を呈しており、訪れる登山者を魅了しています。また、この公園内に位置する平湯や新穂高、栴尾、福地、新平湯の5つの温泉地を総称して奥飛騨温泉郷と呼びます。湯量が豊富で、露天風呂も数多く、ゆったりとしたひとときを楽しむことができます。

自然公園の利用上のマナー

自然公園内では自然を大切にすることを心がけ、次のことを守りましょう。

- 登山道からはずれないでください。
- 植物や動物をとりなさないでください。
- 野生動物本来の生態を守るため、餌を与えないでください。
- 入山前にトイレを済ませ、道中は携帯トイレの利用も考えましょう。

火山登山者向けの情報提供ページ

自然公園の多くには、活火山が含まれています。焼岳・アカンダナ山は活火山であることに留意し、正しい知識を持つことが大切です。登山前に、最新の噴火レベルや火山情報を確認しましょう。

焼岳の活動状況

URL: https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/activity_info/310.html

アカンダナ山の活動状況

URL: https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/activity_info/335.html

焼岳の火山観測データ

URL: <https://www.data.jma.go.jp/vois/data/obs/kansoku/open-data.php?id=310>

焼岳全域図凡例

△	山頂(山名)
—	登山道
- - -	登山道(一般的ではない難路)
—	有料道路
—	道路(路線番号)
—	川・沢(川・沢名)
—	ロープウェイ
Ⓜ	登山届ポスト
Ⓜ	山小屋等
Ⓜ	危険情報
Ⓜ	注意喚起情報
Ⓜ	火口からの距離標識

焼岳全域図



焼岳

過去1万年間の噴火活動

焼岳の形成は15000年前頃から始まり、活動の初期には黒谷付近に岩谷や火砕流を噴出した。最近1万年間にも岩谷や火砕流の噴出が続き、約2300年前には最新のマグマ噴火が起こり、この活動で焼岳の頂上岩谷と中尾火砕流が同時に噴出した。この噴火の後も、4回/千年の割合で水蒸気噴火が発生している。

有史以降の主な火山活動

噴火年代	現象	活動経過・被害状況
▲630年	水蒸気噴火(小規模)	火砕流降下。噴火場所は山頂付近。
▲685年	水蒸気噴火(中規模)	火砕流降下。噴火場所は山頂付近。
▲1270年	水蒸気噴火	火砕流降下。噴火場所は山頂付近。
▲1440年	水蒸気噴火	火砕流降下。噴火場所は山頂付近。
▲1460年	水蒸気噴火(中規模)	火砕流降下。噴火場所は山頂付近。
▲1570年	水蒸気噴火	火砕流降下。噴火場所は山頂付近。
▲1746年	水蒸気噴火(中規模)	火砕流降下。噴火場所は山頂付近。
1887(明治20)年頃から	噴火	中尾火砕流が山頂に噴出し、次第に山頂方面及び栴尾に波及。
▲1907-09(明治40-42)年	水蒸気噴火	火砕流降下。降灰、白火口付近に新火口生成。噴火場所は正貫池火口、正貫池火口東側。1909年噴火:旧黒谷火口の西側に新火口生成。
▲1910-12(明治43-45)年	水蒸気噴火	2回噴火。火砕流降下。噴灰、降灰。噴火場所は正貫池火口、隠居火口。1911年噴火:火口生成。1912年噴火:降灰。
▲1913-14(大正2-3)年	水蒸気噴火	火砕流降下。噴灰、降灰。噴火場所は隠居火口。
▲1915(大正4)年	水蒸気噴火(中規模、泥流)	火砕流降下。泥流。噴火場所は大正池火口、隠居火口。6月噴火。噴火前日に地震発生。山頂東側の標高約1900mの台地から山頂側斜面に達する長さ1kmの大地震を生じ、この震源に数ヶ所の火口生成。噴灰による雪氷、泥流による河川のせき止め、決壊、洪水発生。大正生成。同年7月小噴火。
▲1916(大正5)年	水蒸気噴火	火砕流降下。降灰。噴火場所は大正池火口、隠居火口。
▲1919(大正8)年	水蒸気噴火	火砕流降下。噴火場所は黒谷火口、隠居火口。
▲1922(大正11)年	水蒸気噴火	火砕流降下。降灰。噴火場所は黒谷火口、隠居火口。
▲1923(大正12)年	水蒸気噴火	火砕流降下。噴火場所は黒谷火口、隠居火口。噴灰、降灰多量。噴灰に被害。
▲1924-26(大正13-15)年	水蒸気噴火(泥流)	火砕流降下。泥流。降灰。噴火場所は隠居火口、黒谷火口。1925年噴火:噴石、柱状、噴灰、降灰。本噴火(大正)に伴う泥流が発生。1926年噴火:小噴火。噴灰、降灰多量。噴灰に被害。
▲1927(昭和2)年	水蒸気噴火	火砕流降下。降灰。噴火場所は隠居火口、黒谷火口。
▲1929(昭和4)年	水蒸気噴火	火砕流降下。降灰。噴火場所は隠居火口、黒谷火口。
▲1930-31(昭和5-6)年	水蒸気噴火	火砕流降下。降灰。噴火場所は隠居火口。
▲1932(昭和7)年	水蒸気噴火	火砕流降下。降灰。噴火場所は詳細不明。
▲1935(昭和10)年	水蒸気噴火	火砕流降下?噴灰音、有感地震。噴火場所は詳細不明。
▲1939(昭和14)年	水蒸気噴火	火砕流降下。降灰。噴火場所は詳細不明。
1953(昭和28)年	地震	7月下旬。
1958(昭和33)年	地震	6-9月。
▲1962-63(昭和37-38)年	水蒸気噴火(中規模、泥流)	火砕流降下。泥流。噴火場所は中尾火砕流火口、黒谷火口。中尾火砕流の山腹に長さ500mの割れ目(新火口)生成。多量の噴石、降灰、火口付近の小屋で食糧2名。
1968(昭和43)年	地震	上高地付近で有感地震(最大震度3)が発生。詳細不明。
1969(昭和44)年	地震	8月、M4.7の直後から地震発生。9月下旬まで継続。9月2日M5.0(震度3)。震源は焼岳東方の隠居火口付近。
1990(平成2)年	地震	4月1日-5月上旬。震源は焼岳の東方約10km(震度M4.4)。
1995(平成7)年	水蒸気噴火	焼岳山頂の南東約3kmの安房トンネル建設に伴う国道158号線付け替え工事現場において水蒸気噴火が発生し、火山ガスを含む噴火が600mを超す土砂が噴出し、またその影響によって土砂崩れも引き起こされた。作業員4名が犠牲となった。
1998-1999(平成10-11)年	地震	8月-翌年。上高地付近(東東約5-10km)を震源とする群発地震活動が始まったが、徐々に地震数は減っていった。
2011(平成23)年3月-12月	地震	東北地方太平洋沖地震(2011年3月11日)以降、山頂直下-北西麓の浅い所の地震活動が活発化。有感地震多発。3月11日14時57分M4.7(震度4)、2日13時15分M4.8(震度3)。
2017(平成29)年	噴火、地震	8月9日、10日。空振を伴う低周波地震が発生。黒谷火口において白色の噴火が100m程度まで上がるのを観測。黒谷火口内で弱い噴火と土砂が噴出したのを確認。
2018(平成30)年	地震	11月22日頃から山頂の北西1-2km付近のやや深いところを震源とする地震が増加。12月4日には山頂の東2km付近でもやや深いところを震源とする地震が一時的に増加。
2019(令和元年)	地震	7-10月。空振を伴う浅い地震が増加。地震発生時、噴火の状況に大きな変化は認められず。
2022(令和4)年	地震	5月23日23時頃から山頂付近を震源とする微小な火山地震が増加。翌日(24日)に噴火警戒レベル2(火口周辺規制)に引き上げ。令和4年7月12日に噴火警戒レベル1(活火山であることに留意)に引き下げ。

アカンダナ山

過去1万年間の噴火活動

アカンダナ山の下方に分布する火砕岩中から約12000年前の年代が得られ、さらにアカンダナ山から噴出した下位輸山岩谷によって覆き止められた安房平に堆積した湖成層から9500~1万年前の年代が得られている。このことから、外輸山岩谷はおよそ1万年前に噴出したものと推定される。さらに、活動年代は不明であるが、この後に現在三角点がある山頂を形成している岩谷ドームが噴出した。

有史以降の火山活動

記録に残る火山活動はない。

観光情報

高山市 Takayama



飛騨山脈(北アルプス) 奥飛騨地域のみどころ

奥飛騨地域は、槍・穂高連峰、栴尾岳、岐阜県・岐阜市の単独最高峰の笠ヶ岳の名峰に囲まれています。これらの山々は北アルプスと呼ばれ、中部山岳国立公園としても知られています。北アルプスは多種に渡る高山植物や高山ならではの動物など貴重な自然に満ちています。

新穂高登山指導センター

岐阜県高山市奥飛騨温泉郷710番地9(新穂高センター内)

新穂高登山指導センターは、北アルプス山岳避難対策協議会と岐阜県警察本部により運営しており、登山シーズンには24時間体制で登山指導を実施しています。登山をされる方は、必ず登山届を提出し、ヘルメットを携帯しましょう。

☎ 0578-89-3610 (お問い合わせ時間帯: 平日の午前8時30分~午後5時まで)

奥飛騨温泉郷観光案内所・休憩所

岐阜県高山市奥飛騨温泉郷710番地9(新穂高センター内)

奥飛騨地域の観光スポット情報が入る総合案内所です。観光や登山を楽しむ前に、ぜひ一度立ち寄りください。

☎ 4月から10月 午前10時から午後5時まで(ゴールデンウィーク、夏休み、紅葉時期は午前9時から開館予定) 11月から3月 午前10時から午後4時まで 年中無休 ☎ 0578-89-2458

新穂高の湯

岐阜県高山市奥飛騨温泉郷710番地9(新穂高温泉)

巨石で造られた開放感が溢れる露天風呂。蒲田川のほとりに造られており、そこからはダイナミックな深流の流れや北アルプスの大自然を眺めながらの入浴が満喫できます。

※入浴時は必ず水着や浴巾を着用してください。

☎ 4月下旬~10月30日 ※冬季は休業となります。 ☎ 8:00~18:00 ※無休(河川増水時休業の場合) ☎ 清掃協力金(300円程度) ☎ 駐車場あり(無料) ☎ 0578-89-2614 (奥飛騨温泉観光協会)

新穂高ロープウェイ

岐阜県高山市奥飛騨温泉郷新穂高温泉

日本唯一の2階建てゴンドラに乗れば、子供からお年寄りまで、気軽に標高2,000mを超える絶景を楽しむことができます。残雪と新緑の「春」、自然と青空のコントラストが美しい「夏」、色鮮やかな「秋」、山々が雪化粧を著す神秘的な「冬」。その季節に合わせて、表情が異なる360°の絶景が一望できます。

☎ 季節によって異なるのでお問い合わせください(運賃時(上り)8:30~16:00) ☎ 年中無休 ※台風時・定額点検の場合、運休することがあります。 ☎ Webサイト参照 ☎ 新穂高温泉観光協会 乗車料600円(6歳未満は、6歳児と同一料金追加)、バス2300円/6時間 ☎ 0578-89-2252

平湯大滝

岐阜県高山市奥飛騨温泉郷平湯

日本の滝百選に名を連ねる飛騨三大自然の一つとして知られている平湯大滝。四季折々に美しい表情を見ることが出来ます。毎年2月15日から2月25日まで平湯大滝結氷まつりが開催され、凍った滝のライティングが楽しめます。

☎ 年中無休 ☎ 入場料無料 ☎ 無料(冬期間) ☎ 0578-89-3030(平湯温泉観光案内所)

登山道の状況について

- 岐阜県が独自に調査した箇所について表示しています。
- 登山道の状況は2016年8~10月に行った調査結果です。
- 登山道の状態は、天候等の影響により変動することがありますので、注意しましょう。
- 山小屋等施設を利用する際は事前に利用の可否について管理者に確認しましょう。